

公益社団法人日本地球惑星科学連合

第6回学協会長会議議事録案

開催日時 : 平成24年5月23日(月)12時30分から13時30分
開催場所 : 幕張メッセ国際会議場302号室(千葉市美浜区中瀬2-1)
出席者 : [学協会] 中田節也(特定非営利活動法人日本火山学会), 新野宏(社団法人日本気象学会), 大谷栄治(日本鉱物科学会/連合), 椎葉充晴(水文・水資源学会), 福田洋一(日本測地学会), 北和之(大気化学研究会/連合), 中村正人(地球電磁気・地球惑星圏学会/連合), 津田敏隆(地球電磁気・地球惑星圏学会/連合), 石渡明(日本地質学会), 荒井良雄(公益社団法人日本地理学会), 矢ヶ崎典隆(日本地理教育学会), 知北和久(陸水物理研究会) 田近英一(日本惑星科学会/連合) [学術会議] 永原裕子, 中島映至, 北里洋[連合] 木村学, 川幡穂高

議事内容

1. 大会運営について

5月23日現在、本年度の大会は順調に運営されており、昨年並みの参加者である。

2. 日本学術会議の近況報告

地球惑星科学委員会の永原委員長から、地球惑星科学分科会22期の3つの主要課題について報告がなされた。

- ①地球惑星科学のグラウンドデザインとして、学問のあり方、人材育成のあり方など報告書を作成することを検討している。
- ②大学教育分野別質保証のための参照基準作りを検討している。
- ③大型研究計画のマスタープランの改定を予定している。

3. 理工系学協会連絡会報告

木村会長から、5月18日に日本学術会議の呼びかけにより開催された第3回理学・工学系学協会連絡協議会について報告がなされた。科学研究費補助金成果公開促進費の新制度について、新公益法人制度に関わる学協会の対応状況について、夢ロードマップと大型計画マスタープランについて、大学教育の質保障について、学協会と学術会議の連携強化について検討が行われた。なお、学協会の公益法人化については分野によって対応が異なるが、公益法人の数を増やすことは文部科学省に強い圧力をかけることにもなる。

4. 学協会公益法人化について

昨年度は公益法人認定が順調に行われ、日本地球惑星科学連合は申請から3か月で法人化を実現した。本連合に加盟する学協会では、日本地下水学会、日本地震学会、東京地学協会、日本地理学会が公益社団法人化した。

又、日本気象学会、日本地質学会なども公益認定申請を検討している。

5. 国際ジャーナルについて

連合の川幡理事よりジャーナル発行についての経緯と現状の説明があった。

科学研究費補助金(研究成果公開促進費—国際情報発信強化—)の公募(オープンアクセス刊行支援、2000万円以上)に応募することを考えている。具体的には、15人から構成される委員会を組織して検討を行う。なお、出版社としてスプリンガー社が候補にあがっている。

6. 大気海洋・環境科学セクションの改称について

中島セクションプレジデントから、新セクション名「大気水圏科学セクション」(Atmospheric and hydrospheric science section)を総会に提案することが説明された。

また、サブセクションとして「大気、海洋、陸水、雪氷、環境」を設け、「環境」は分野横断的な形にする。

7. その他

学協会長会議の次期議長は、日本地質学会の石渡明会長にお願いすることが満場一致で決まった。
なお、議長はゆるやかな分野ごとの持ち回りで担当しており、これまで日本気象学会（廣田先生）、日本地震学会（平原生）、日本地理学会（矢ヶ崎先生）にお願いした。

以上